

フグ中のテトロドトキシシ量は？

テトロドトキシシは、フグ中毒の原因物質であり、毎年死亡事例が報告される強力な神経毒です。熱・光・酸に安定で、一般の調理法では分解・除去することができません。中毒症状は、手足の痺れ、歩行困難、呼吸困難で死に至ることもあります。フグ中のテトロドトキシシ量はフグの種類や部位によって、また季節や生息海域によっても異なり、食品衛生法により食べられるフグの種類や部位について細かく定められています。

今回、クサフグ、コモンフグ、ショウサイフグ、ヒガンフグについて、筋肉、皮、肝臓の部位ごとにテトロドトキシシ量を測定しました。4種類のフグの筋肉はいずれも食べられる部位であり、0.2～26MU/g とほとんどが無毒でしたが、コモンフグやヒガンフグには弱毒のものが含まれていました。皮や肝臓はいずれも食べられない部位であり、0.9～640MU/g と無毒から強毒のものまでありました。ショウサイフグやヒガンフグの肝臓では同じ種でも個体差により 100 倍程度の毒力の違いがみられ、それぞれ 4.2～640MU/g、3.6～310MU/g でした。

フグ中毒のほとんどは魚釣りなどで入手したフグを資格を持たない人が調理したことによるものです。特に皮や肝臓では個体差が大きく 10g 程度でも致死量となる恐れがあり、過去に食して大丈夫だったといって必ずしも安心できません。家庭での素人料理は絶対にやめましょう。

フグのテトロドトキシシ量

種類	試料数	テトロドトキシシ量(MU/g)		
		筋肉	皮	肝臓
クサフグ	2	0.2～1.3	8.2～23	0.9～35
コモンフグ	4	2.0～26	100～270	8.6～77
ショウサイフグ	3	0.9～7.2	4.3～150	4.2～640
ヒガンフグ	5	0.7～14	3.0～73	3.6～310

* 灰色セルは、食用可の部位

* 1MU は体重 20g のマウスを 30 分で死亡させる毒量でテトロドトキシシ 0.22 μg に相当

* 人間の致死量は、10,000MU

* 無毒: 10MU/g 未満 (1kg 以下では致死量にならない)

弱毒: 10MU/g 以上 100MU/g 未満 (100g から 1kg で致死量となる)

強毒: 100MU/g 以上 1000MU/g 未満 (10g から 100g で致死量となる)

猛毒: 1000MU/g 以上 (10g 以下で致死量となる)

